

# シラバス作成ガイドライン

トヨタ神戸自動車大学校

## シラバスとは

「各授業科目の詳細な授業計画。一般に、授業名、担当教員名、授業の目的、各回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習などについての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習を進めるための基本となるもの。」【中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて（2008）」】と定義づけられています。

また、シラバスの作成・公表は、2020年度から始まる「高等教育の無償化」制度の機関要件にも含まれており、専門学校においても、シラバスは「学生の主体的な学習」を促せるツールとして活用することが求められています。

## シラバスの役割

### <学生にとって>

- ・シラバスの情報（授業の目的や修得目標、授業計画、成績評価方法・基準等）から、その授業科目を修得するためにどのくらいの学習が必要なのかが把握できます。その結果、修得目標を意識させることで、学生の主体的な学習を促すこともできます。
- ・シラバス記載内容については、教員と学生の双方で同意し、授業に関する契約を結ぶという面もあります。

### <教員にとって>

- ・担当している授業の「授業の目的」や「修得目標」、「成績評価方法・基準」を明確化することで、その目標達成に向けた「授業計画」の構築につなげることができます。また、目的・目標を効果的に達成するための授業改善にも生かすことができます。
- ・教員間で、お互いの授業の目的・目標・内容等を確認・共有することができるので、学科としての整合性のある教育カリキュラムの構築につなげることができます。
- ・シラバスの作成・公表に加えて、成績評価の客観的指標の設定などにより厳格かつ適正な成績管理を実施・公表していることは、高等教育の無償化制度の機関要件にとって必要なものとなっています。

## シラバス記載内容

### <基本情報>

学科／実習／教養の区分  
科目名  
科目コード  
開講時期  
授業時限数  
担当教員  
教員の実務経験

### <詳細情報>

授業の目的  
修得目標  
授業計画  
成績評価方法・基準  
教科書・教材  
授業外における学習  
履修に当たっての留意点

## シラバス記載のポイント

### ●授業の目的

その授業の位置づけや各学科の目標人材像を踏まえて、授業を履修する「学生を主語」に記載してください。目的に使用する動詞は以下のようなものが挙げられます。

**知る      理解する      修得する      身に付ける      できるようになる**

<授業目的の記載例>

「××するために、○○について理解し、△△をできるようになる。」(学生を主語で記載)

### ●修得目標

修得目標は、学生がその授業を通して身に付けるべき能力を指します。この項目についても、目標を達成する主体は学生なので「学生を主語」に記載してください。目標は「知識・理解」「思考・判断」「技能・表現」「意欲・関心」「態度」の5つの領域とそのレベルで示すことができます。1つの授業ですべての領域の目標を導入する必要はありませんが、この5つの領域を参考に授業内容に応じて目標を設定してください。

<修得目標設定のポイント>

- ・測定や評価が可能な形で設定する

「～を理解する」という目標は、抽象的な表現のため、学生との目標共有にギャップが生じる可能性があります。具体的にどのレベルまで、何ができるようになるのかを表現するようにしてください。

例えば、「○○と△△の違いを説明できる」や「電卓を使って○○の計算ができる」「××の作業が○○でできる」というように具体的に記載してください。

- ・1つの文章に1つの目標を示す

1つの文章に複数の目標があるのは望ましくないため、目標に主従関係がある場合を除いて、個別に評価できるように文章を分けてください。

例えば、「○○の仕組みを説明できるとともに、××の作業ができる」という記載は「○○の仕組みを説明できる」と「××の作業ができる」という2つの目標に分けるようにしてください。

- ・難易度は、現実的かつチャレンジングなレベルに設定する

目標が高すぎると、学生は学習に取り組む前に諦めてしまい、目標が低すぎると達成感が得られずにやる気を無くしてしまいます。カリキュラム全体における当該授業の位置づけを踏まえた上で、対象学生の学年や能力などを考慮して、達成すべき目標を設定してください。

### ●授業計画

授業全体は、基本的に複数の授業で構成されるため、それぞれの授業で扱う内容を具体的に示し、学生が授業の流れを理解できるようにしてください。学生が無理なく学習でき目標を達成できるよう、内容は詰め込みすぎず、修得しやすい順序となるよう授業計画を立ててください。

## ●成績評価方法・基準

修得目標が達成できたかをどのように判断するのかを記載します。測定の方法と基準の配分を記してください。成績評価の基準は、学生が最も注意を向ける項目であるため、授業の冒頭でそれぞれの評価基準について示すことで、学生は目標を持って学習することが可能となります。

<成績評価方法・基準の記載例>

筆記試験 80%、レポート評価 20% (レポートおよびデイリーチェック)

## ●教科書・教材

使用する教科書および学生本人が持参すべき教材を記載してください。

## ●授業外における学習

授業外で必要となるレポートや家庭学習について記載してください。また、技能修得のための開放授業の案内等を記載いただいても構いません。

## ●履修に当たっての留意点

授業を受講するにあたっての学生の留意点 (心構え、約束事項など)、特記すべき事項、学生へのメッセージがある場合は記載してください。